

水稻栽培の省力化へ乾田直播の実証圃を設置（世羅町）

【平成30年4月27日掲載】

4月3日、世羅町の（農）さわやか田打（代表理事 岡田以得（おかだ いとく）、構成員 58名）で水稻栽培の省力化を目的とした、乾田直播の実証圃を設置しました。

乾田直播は他の都道府県での定着事例がありますが、代かきを行わない栽培体系であることから漏水が著しく、県内では用水確保が容易な一部地域での取組に限定されていました。

当該法人では春作業の省力化・コスト低減に取り組むため、2年前に当所提案を受け、育苗箱への播種量を増やすことで使用育苗数の低減を図る密播移植栽培に取り組み、平成30年産は約20haまで取組面積を拡大しました。

今回は更なる作業の省力・軽労化をめざし、鎮圧・均平作業の容易なレーザーレベラーの導入を契機として、乾田直播の実証圃設置に踏み切りました。

当日は、播種前日にレーザーレベラーによる鎮圧・均平作業を行った56aのほ場に飼料用米品種の「夢あおば」を播種しました。10a当たりの作業時間は約15分と移植栽培の7~8割の時間で作業を終えました。作業に携わった法人の役員等からは、「畑地状態での作業のため種子や肥料の補給が非常に楽。これで移植栽培並みの収量が確保できるのであれば取組面積を拡大したい。」と好感触の意見が相次ぎました。

本技術は、鎮圧による漏水対策及び出芽の安定化と稲出芽直前の雑草防除が成否を分ける重要なポイントとなることから、今後、指導所では雑草防除のタイミングの判定について指導・助言を行うとともに、収量及び省力性の面から世羅地域における本技術の導入可能性について検証を行っていくこととしています。



レーザーレベラー施工



種子・肥料の補給



播種作業

情報提供元

東部農業技術指導所